



和寒野球スポーツ少年団 全道大会出場 善戦惜しくも初戦敗退



和寒野球スポーツ少年団（西田陽司監督、団員17名）が「高円宮賜杯 第37回全日本少年学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント北・北海道大会」にチーム設立以来初の出場を決めました。

地区予選では名寄地区4強の一角、士別九十九野球少年団、士別南野球少年団をいずれも延長戦を接戦で制し代表となりました。

全道大会出場16チームがした初戦は、昨年準優勝の稚内野球スポーツ少年団との対戦。1点先制された和寒は諸岡洸佑くん（4年）の3塁打でチャンスをつくり、加藤慶汰くん（6年）のヒットで同点に追いつきました。

ケガを押して先発した加藤くんは毎回粘りのピッチングをするが、1対1の同点で迎えた5回裏に長打を浴び2失点。6回裏には打球が芝の境目で跳ね外野手の頭上を超えてホームランとなる不運な追加点をさらに許した。和寒は2度にわたる逆転のチャンスをものにできず、1対5でゲームセットとなりました。



エース加藤くん（6年）

試合後、監督を務める西田陽司さんは、「6年生が3人しかいない中で地区予選を勝ち抜き、全道大会に出場することができた。今日の試合も負けはしたが決して悪くなかった。頑張った子どもたちを褒めてあげたい」と。キャプテンの福川凌正くんは、「たくさん応援してくれた人たちに勝つところを見せられず悔しかった」と話していましたが、子どもたちの表情には悔しさの中にも全道大会出場を果たした誇りが見えました。よくやったぞ！和寒野球スポーツ少年団ナイン！



大会キャラクターと一緒に

監督	西田陽司
主将	福川凌正（6年）
	加藤慶汰（6年）
	佐藤優吾（6年）
	半澤理玖（5年）
	牧将多（5年）
	池澤巴琉（5年）
	乗田幸士朗（5年）
	池澤琉生（5年）
	和久幹希（5年）
	瀬戸証士（4年）
	諸岡洸佑（4年）
	川江空汰（4年）
	吉原舜之助（4年）
	菅原唯斗（3年）
	藤原颯良（3年）
	細川皓生（3年）
	村岡結也（3年）

この大会は、国内最大級の学童野球大会で、明治神宮球場で行われる全国大会は「小学生の甲子園」と呼ばれています。



難しい打球もナイスキャッチ



チャンスに応援も熱が入る！



3塁打を放つ諸岡くん（4年）